

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

令和7年7月31日に文部科学省から提供された全国学力・学習状況調査結果について、上野原市の分析結果がまとまりましたのでお知らせします。

本調査は、本年4月14日から17日にかけて全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることなどを目的として、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施されました。

内容は、教科に関する調査(小学校：国語 算数 理科、中学校：国語 数学 理科)と生活習慣や学習環境等に関する調査が行われ、市内4校の小学校第6学年の児童108名、3校の中学校第3学年の生徒128名が参加しました。

この調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、教育委員会としましてはこの分析結果を生かしながら、児童生徒の学力や生活習慣の向上を図り、教育委員会教育方針であります「確かな学力と豊かな心の育成を目指した教育の充実」の実現に向けて、なお一層の教育活動を推進していくきたいと考えています。子どもたちの健やかな成長のためには、家庭、地域の協力が欠かせませんので、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願ひいたします。

なお、各学校における教科に関する考察と今後の対策等については、個人面談や学校だよりなどにおいてお知らせする予定です。

上野原市教育委員会

○教科に関する調査の状況について（平均正答率）

		全国平均と比べて	県平均と比べて
小学校 6年	国語	ほぼ同じ	ほぼ同じ
	算数	やや下回る	ほぼ同じ
	理科	ほぼ同じ	ほぼ同じ
中学校 3年	国語	ほぼ同じ	ほぼ同じ
	数学	ほぼ同じ	ほぼ同じ
	理科		

○ほぼ同じ… ± 5 ポイント未満の違い

○やや上（下）回る… 5 ポイント以上の違い

○上（下）回る… 10 ポイント以上の違い

中3理科はIRTスコアで算出しているため、平均正答率としては比較できないため、斜線にしています。

IRTとは

国際的な学力調査（PISA、TIMSSなど）や英語資格・検定資格（TOEIC・TOEFLなど）で採用されているテスト理論。児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できる。

IRTスコアとは

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。CBT・IRTを導入する年の全国平均500点が基準値となる。

*全国学力・学習状況調査では、主として「知識」に関するA問題と、主として「活用」に関するB問題に分けて調査を実施してきましたが、令和元年度以降は新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、A問題・B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的な問題として調査を実施することになりました。

*理科は平成24年度から追加され、3年に1度程度実施となっています。

*令和7年度から中学校理科、児童・生徒質問紙調査は、オンライン（CBT方式）で実施しています。

○教科に関する考察と今後の対策

【小学校国語】

できている点
①目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけ、提示されている条件を意識しながら自分の考えを書けている。
②漢字、語句などを習得し、正しく使うことができている。
③時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容のだいたいをとらえることができている。
課題となる点
1) 日常生活の中から話題を決め、目的や意図に応じて自分の考えを明確にする中で、集めた材料を分類したり、関係づけたりして、伝え合う内容を検討すること。
2) 目的や意図に応じて、必要な情報を文章と図表などを結びつけながら自分の考えが伝わるように簡単に書いたり、詳しく書いたりするときに、書き表し方を工夫すること。
3) 無回答率が増加し、問題を時間内に解けていないこと。
今後の対策
1) 「目的や意図に応じて」という点において苦手意識が強いことから、普段の授業づくりを見直す時期にきている。日々取り組んでいる授業が「目的（Goal）が明確か」「児童と目標が共有できているか」「単元計画を工夫しているか」「成果物は何か」を意識しながら実践を重ねていく。
2) ワークシートの工夫（話し合いカード等）や、振り返りシート（文や表、図）を工夫したり、1時間の授業の中で学習過程を明確にしたりする。また、語彙を豊かにするために「読書」「家読」「会話」「スピーチ」「日記」等に取り組む。
3) タイムマネジメントを大切にしながらも、普段の授業の中でも「間違える」ことに対して抵抗感を減らしていくようにするとともに、学級の中に「間違えても友達に受け止めもらえる」と思える心理的安全性が保てるよう学級づくりに取り組む。

【小学校算数】

できている点
①異分母の分数の加法の計算をすることができている。
②棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができている。
③全体量を何倍かで割ると比べられる数値が出るということを理解している。
課題となる点
1) 台形の意味や性質について理解すること。
2) 角の大きさについて理解すること。
3) 数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えること。
4) 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと。
5) 簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶこと。
今後の対策
1) 2) I C T機器を活用して台形を作り台形の定義や、角の大きさについて理解させたり、具体物を操作したりして内容を深めたりする活動に取り組む。
3) 課題・問題を解決するために数学的活動を取り入れながら、数直線や図、表等を活用して立式できるようにする。また、学んだことを活用できるように、日常生活で使う場面を想定した問題を作成し、学校間で共有する。
4) 二つの数量がどのように関係しているかを正しく読み取るため、表やグラフ、簡単な図、数直線などを用いて、何がわかっているのかを可視化する活動を取り入れる。
5) グラフや表等から必要な数値を読み取り、条件を考えながら言葉と数を用いて書いて説明する活動に取り組む。

【小学校理科】

できている点
①顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能など、用具（顕微鏡）の使い方について理解している。
②水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しており、事象を理科の学習と結びつけられている。
③電気の回路のつくり方について理解している。
④電流がつくる磁力について理解している。
課題となる点
1) 実験・観察を行う場合に、児童が見通しをもち「予想」「気づいたこと」「まとめ」「振り返り」等を意識しながら、理科的な用語とその意味を確実に理解し、調べ活動等を通して技能を身につけること。
2) 実験・観察を通して問題を解決する力を身につけたり、新たな課題を見いだし、表現したりすること。
3) 自分の考えをもち、説明できたり、話し合ったりする活動を取り入れて主体的に学ぶ意欲を育成すること。
今後の対策
1) ワークシート等を工夫して、学んだことを図や表、グラフを用いたり、文章でまとめたりする機会を大切にする。また、教員が授業の中で理科用語を正しく使用することを通して正しく知識・技能が身につくようにする。
2) 高学年に進級しても実験活動を繰り返したり、「ものづくり活動」を取り入れたりしながら授業を展開する。その中で、教員が疑問をもたせる問い合わせ（発問）をしたり、実験・観察結果を見える化して「比較」したりする場面をつくるためにICT機器を効果的に活用していく。
3) 学習内容が日常生活と結びつくように単元計画を立て、児童が主体的に学習に取り組めるように授業の目的を明確にする。その中で、自分で課題を決めて取り組む時間を確保したりして授業づくりをしていく。

【中学校国語】

できている点
①目的に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしていることができている。
②自分の考えが分かりやすく伝わるように、表現を工夫することができている。
課題となる点
1) 自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書くこと。
2) 事象や行為を表す語彙を理解していること。
3) 語句の用法・叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。
今後の対策
1) 根拠を明確にして自分の考えをまとめさせる学習を多く積ませる。また小グループで書いた文章を読みあい、様々な考えに触れさせて視野を広げさせたり、考えを裏付けるための根拠として適切であるか評価しあったりする。
2) 漢字や語句の学習の際には、用例を確認しながら学習することを意識させる。また、デジタル教科書やドリルなどを活用して、語彙の拡充を図る。あわせて、「書くこと」の活動の際、「語彙 book」などの教科書の補充教材を利用して書くことの指導を工夫する。さらに学校図書館と連携して読書の励行に努め、様々な語句や表現に触れられる機会を増やすように努める。
3) 書いた文章や乱れた文章を整えさせる際には、例えば、1つの文の長さが適切か、主語と述語が正しく対応しているかなど、整える上での観点を与えてから考えさせる。また、文章を書いた際には、推敲する習慣を身につけるように指導していく。

【中学校数学】

できている点
①素数の意味を理解している。
②多角形の外角の和を理解している。
③事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができている。
④式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができている。
課題となる点
1) 数量や文字を用いた式で表すこと。
2) 一次関数 $y = a x + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求める。
3) 相対度数の意味を理解すること。
4) ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること。
今後の対策
1) 数量や文字を用いた式で表すことについて振り返り、割合・歩合を扱った文字式の表現について確認する。また、授業の中で文字を用いた数量の表し方を復習する場面を設定する。
2) 関数領域の授業の際に、表を使って増加量の考え方を振り返り、式でも y の増加量を求められるように指導する。また、増加量の意味を確認し、 x を代入したときの y の値との違いについて説明をする。
3) 度数分布表で使われる階級や度数などの用語やその意味を確認する。さらに、相対度数の意味や求め方を指導する。また、いくつかの具体的な問題を解決する場面を設定する。
4) 図形に関わる条件や性質を確認する。また、図形領域だけではなく他領域の学習においても、なぜその式になるのか、なぜその条件を用いたのか等、言葉で説明する活動を取り入れた指導を行う。

【中学校理科】

できている点
①回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身についている。
②身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定することができている。
課題となる点
1) 元素を記号で表すことに関する知識及び技能を身につけること。
2) 科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目して振り返りを表現すること。
今後の対策
1) 小学校での学習事項を精選し、原子・分子の粒子の概念を丁寧に指導し、科学に関する基礎的な知識を身につけられるようにする。
2) ICT 機器を授業の中で活用し、協働的な学びの充実につながる授業改善を図る。
3) 授業後に、疑問に感じたことや身近な生活に関連づけられる自己評価振り返りの場面を意図的に設定する。

令和7年度
児童生徒質問紙調査

表の数値は、選択肢のうち「そう思う」「どちらかといえ
ばそう思う」を肯定的な回答として割合を示しました。

*次の調査結果は、重要で関心が高いと思われるものを抜粋しています。

1 生活習慣等について

子どもたちの学習意欲の維持向上につながる基本的生活習慣（食事や十分な睡眠時間の確保）は成長期に必要不可欠で、中学生の就寝を除いて、全国・県と差は見られません。朝食を毎日食べていますかの設問では小中とも昨年同様90%を超えていました。毎日、同じくらいの時刻に寝ていますかの設問では、生徒(71.1%)は全国より9.9ポイント、県より11.2ポイント低く、改善が必要です。

[単位：% 以下同じ]

朝食を毎日食べていますか			
	市	県	全国
小	96.2	95.0	93.7
中	91.4	92.0	91.2

毎日、同じくらいの時刻に 寝ていますか			
	市	県	全国
小	88.7	86.4	81.9
中	71.1	82.3	81.0

毎日、同じくらいの時刻に 起きていますか			
	市	県	全国
小	96.2	93.5	91.0
中	93.8	93.2	92.6

2 自己有用感、挑戦心、達成感、規範意識、幸福感について

将来の夢や目標を持っていると回答した児童(86.8%)・生徒(68.0%)は国との比較でそれぞれ3.7ポイント・0.5ポイント高くなっています。人が困っているときは、進んで助けていると回答した児童(96.2%)・生徒(93.0%)は国との比較でそれぞれ2.5ポイント・2.1ポイント高く、県と同等になっています。いじめや困っている人を助ける設問では児童生徒ともに90%以上になります。「行くのが楽しい学校作り」が学習や生活の指導基盤であり、笑顔で楽しい学校生活が送れるよう、コミュニティ・スクール等の仕組みを活用し、学校・家庭・地域・教育委員会が連携して子どもたちの教育を充実していきます。

自分には、よいところがあ ると思いますか			
	市	県	全国
小	89.6	88.9	86.9
中	85.9	89.0	86.2

将来の夢や目標を持っ てていますか			
	市	県	全国
小	86.8	86.2	83.1
中	68.0	70.8	67.5

学校に行くのは楽しいと思 いますか			
	市	県	全国
小	91.5	88.0	86.5
中	80.5	86.9	86.1

いじめは、どんな理由があつても いけないことだと思いますか			
	市	県	全国
小	99.1	98.0	97.2
中	91.4	96.7	95.9

人が困っているときは、進ん で助けていますか			
	市	県	全国
小	96.2	96.1	93.7
中	93.0	93.0	90.9

普段の生活の中で、幸せな気持 ちになることはどれくらいありますか			
	市	県	全国
小	95.3	94.5	93.0
中	93.0	92.2	91.6

地域や社会をよくするために何か してみたいと思いますか			
	市	県	全国
小	85.8	84.9	81.3
中	71.1	77.6	75.3

3 学習習慣、学習環境について

「学校の授業時間以外に普段 1 日当たりどの位の時間勉強しますか」は国と比較して生徒-6.9 ポイント、児童-18.1 ポイントとなっています。「学校の授業時間以外に普段 1 日当たりどの位の時間読書をしますか」と、「新聞を読んでいますか」は、国・県と比較してほぼ同等です。

学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(1時間以上)			
	市	県	全国
小	35.9	52.7	54.0
中	54.7	58.2	61.6

学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(30分以上)			
	市	県	全国
小	33.9	33.0	31.1
中	20.3	24.6	21.4

新聞を読んでいますか(週に1回程度以上読んでいる)			
	市	県	全国
小	11.3	11.3	10.5
中	7.8	7.8	5.7

4 ICTを活用した学習環境について

「PC・タブレットなどの ICT 機器を週 3 回以上使用した」・「ICT 機器を使って情報を整理する・プレゼンテーションを作成する」は、全て国・県より高くなっています。特に週 3 回以上使用した児童(95.1%) は、全国に比べ 19.8 ポイント、県に比べて 13.1 ポイント高く、利用頻度の多さが伺えます。

小 5まで(中 1・2 の時)に受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、週 3 回以上使用した			
	市	県	全国
小	91.5	78.4	71.7
中	82.0	80.7	76.5

PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ができると思いませんか			
	市	県	全国
小	83.0	73.1	69.3
中	66.4	64.1	63.3

PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いませんか			
	市	県	全国
小	82.1	82.2	76.7
中	79.6	78.1	76.6

5 学習に対する興味・関心、理解度について

「各教科が好きですか」では、生徒の国語を除いて全国・県より高くなっています。「将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」では、すべての項目で全国・県より高くなっています。引き続き今年度の調査結果をもとにした授業改善に取り組んでいきます。

国語の勉強は好きですか			
	市	県	全国
小	73.6	63.2	58.3
中	48.5	58.3	57.9

国語の授業の内容はよく分かれていますか			
	市	県	全国
小	93.4	86.6	82.8
中	78.9	78.3	77.0

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか			
	市	県	全国
小	96.2	92.6	90.4
中	89.8	89.4	88.3

算数(数学)の勉強は好きですか			
	市	県	全国
小	70.7	60.5	57.9
中	60.1	49.6	53.8

算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか			
	市	県	全国
小	79.2	81.3	78.3
中	76.6	67.5	70.3

数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか			
	市	県	全国
小	97.2	92.2	91.6
中	78.2	73.6	75.2

理科の勉強は好きですか			
	市	県	全国
小	81.2	81.8	80.1
中	66.5	67.4	63.8

理科の授業の内容はよく分かれていますか			
	市	県	全国
小	93.4	91.5	88.9
中	72.6	74.3	71.4

理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか			
	市	県	全国
小	85.8	85.0	79.9
中	70.3	67.3	63.4